

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	山吹 文也	学校名	堺市立三原台中学校（大阪府）
実施学年	I 学年	教 科	技術
单元名	マルチラック製作実習		

《学びを深めたいポイント》

ものづくりを単純な作業で終わらすのではなく、一人ひとりが全体の作業工程に見通しを持ち、次回の授業につながるような振り返りを毎回提出し、それを全体で共有できるようにしています。こどもたちは、それぞれものづくりに目的をもって取り組んでいるため、一人ひとり製図が異なります。故に、製作の工程はある程度同様ですが、その時間ごとに取り組む工程は異なります。子どもたちと教師で共有しておきたい部分は、授業開始時には「今日この時間で自分がどんな目標を持ち、どんな作業をするのか」であり、終了時には「今日はどんな目標をもって取り組んだ結果どうだったか、そしてどんな気づきがあったか、また次はどんな目標を設定するか」です。一人ひとり異なるため、他者の目標と作業は自分にとっていろいろな気づきを与えてくれます。「なんでもうそんな作業してるん?」「僕はこのように設計しているから、先にこの工程をやらないといけない」など。先生と子どもだけではなく、子ども同士で考えや意見、学習状況を共有し、さまざまな情報から学びを深めてもらうことをポイントと考えています。

《SKYMENU 活用のポイント》

OSKYMENU で活用しているツール

- ・授業開始
- ・モニターへの投影
- ・発表ノート
- ・みんなの作品

本時の目標とそれに対する自己評価、気づき、次回の目標についてをまとめる発表ノートはテンプレート（作業記録）として、資料置き場に入れて置き、そのノートを子どもたちが自由に取り、授業開始時と終了時にまとめる。みんなの作品には、子どもたちが編集したらその都度更新するというルールで授業を展開してます。これにより、子どもたちがいつでも他人の作業記録を見に行くことができます（もちろん、直に見に行き話す割合の方が多いですが）。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	今日の全体目標を聞く (授業時間の兼ね合いもあり、ある程度の工程目標を決めておく) 自分の目標を設定する。	<常に活用> ・授業開始 ・提示機への投影 ・発表ノート ・みんなの作品	全体の目標を確認した上で、自分自身の目標を設定し、他人の目標も共有できる学習環境をつくる。
展 開	自分自身の作業を行う。 <pre> 設計 ↓ けがき ↓ 切断 ↓ 部品加工 ↓ 組み立て ↓ 仕上げ </pre> ・わからない場合は、友達や先生に聞く ・習ったことを再度復習したいときは、ドリルパーク (Benesse ミライシード) 内にある「学習探求ナビ」というツールを活用し、説明動画を確認する。 ・作業に余裕がある場合は、友達をサポートにも回る	 導入 自分の目標設定	提示機の画面には、 ・全体目標 ・作業時間 ・清掃時間 ・振り返り時間 が常に表示しておき、子どもたちが作業ペースを調整できるようにしている。
ま と め	・自分自身の目標に対する自己評価をつける。 ・本時の作業での気づきを記録する。 ・次回の目標を設定する	 作業記録 生徒記入例	自分自身の目標に対する評価や気づき、次回の目標を全体で共有できるようにしておき、他人の経験や考えも自分の経験に追加できるような学習環境をつくる。

《実践を振り返って》

実践内容は、こどもたちの学びを深めることに役立ったと思います。ただ、技術家庭科は 1 週間に 2 回で、技術と家庭で交互に割り振られるため実質週に 1 回の授業になり、時間の制約が厳しい科目です。故に、子どもたちにこのように学びを深める時間をプラス α で設定するということは必然的に製作作業に充てられる時間が少なくなります。この点が正直かなり難しい部分だと感じました。後半には、掃除の部分を無くし、性能の良い掃除機を学校に購入してもらい、私が定期的に掃除していました。やはり、何かをプラスすると何かを減らすか変えるかをしないとなかなか成立しないのが授業であり、その部分をいかに検討するかが重要なポイントだと感じました。

また、発表ノートは見た目が非常にわかりやすく、操作性も良いことが長所だと思います。ただ、こどもたちは、自分のデータは保管され、いつでも見ることができのですが、他人のデータは日を跨ぐと見えなくなります(あくまで今回の実践内容では)。Microsoft teams でエクスポートした発表ノートをフォルダで共有してみた期間もあったのですが、私自身が続きませんでした。なので、teams 内での Excel での共同編集という手段も今後は検討してみようと考えています。